

事例名	地域資源としての「ジビエ」の普及促進
チーム名 【所属名】	中丹ジビエ街道づくり推進チーム 【中丹広域振興局農林商工部企画調整室・森づくり推進室】
メンバー氏名	上田康司、志賀雅子、小塩佳市、中西健二、山本新之介、高橋政志、蘆田茉奈美、山段眞彦、 乾 俊之、柴田尚美、廣末絹男、稲元哲朗
アピール ポイント	<p>《所属長: 企画調整室長 上田 康司》 部内で連携して、ジビエ食肉業者と飲食店をコーディネートし、地域資源の有効活用の動きを作り出した。</p> <p>《アセッサー: 中丹広域振興局 西山 裕樹》 ジビエを調達する仕組みづくり、ジビエ料理の提供者の掘り起こし、消費者の関心を高めるための仕組みを築き、評価も生まれ、府民が口コミで話題にしたり新聞で特集記事が組まれるなど、行政を超えて取組が広がっている。</p>
取組の目的	捕獲した野生鳥獣を地域資源として有効活用するため、「中丹ジビエ(ぼたん・もみじ)街道」として売り出すとともに、良質なジビエの安定供給を確立し、様々な団体と幅広く連携して、地域全体でジビエの普及を図り、将来的に、地域特産物としての定着を目指す。
取組の ターゲット	ホテル、飲食店、(観光客をはじめとする)一般消費者
取組内容 プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の飲食店でジビエ料理が提供されるように誘導 ジビエ料理講習会、材料の無償提供によりメニュー開発支援等 ・地域の一般消費者の認知度向上の取り組み ジビエクッキング、地域イベントでのジビエ料理の販売 ・各種団体等と連携した幅広い取り組み 首都圏飲食店への素材提供 モニターツアーの開催 狩猟者とフレンチシェフの異業種交流会 ・ジビエ利用促進のための捕獲柵の設置と狩猟技術の向上
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ジビエ料理を一定期間提供する「ジビエフェア」に 28 店舗が参加。 ・一般消費者がジビエを食する機会を提供 全体で約 2,000 食以上提供 などにより一定地域の特色ある食材として、認知度が向上
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・川上(狩猟者、獣害に悩む地域)、川中(ジビエ食肉業者、飲食店)、川下(一般消費者、観光客等)のジビエ流通の中で、部内の複数の担当が連携し、それぞれの課題解決に向け、取り組みを進めた。 ・特に地域の飲食店に、地域で処理業者が安全で高品質のジビエを生産していること、ジビエの料理法を知らせることから始め、ジビエの利用の流れを作ることを意識した取り組みを進めた。 ・都市農村交流や食育などの場面で、地域特産物として「ジビエ」を位置づけてもらえるよう、各種団体へ施策提案を積極的に行い、連携できるところから取り組みを進めた。
今後の 展開	<p>ニーズの拡大、定着を図るため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での取扱飲食店の拡大と、他地域(南丹、兵庫県丹波地域)との連携 ・首都圏をはじめとする大都市圏での需要の掘り起こし